# 令和７年度

# 国語

## 一般選抜１期

## 一般選抜特待生選考１期

## 入学試験問題

**注意事項**

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は、9 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気づいた場合は、
手を挙げて監督者に知らせなさい。

３．解答は、解答用紙に記入しなさい。

４．解答用紙には解答欄以外に受験番号、氏名の記入欄があるので、監督者の指示に従って
記入しなさい。

５．問題冊子の余白等は適宜利用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。

６．試験終了後、問題冊子は回収します。

受験番号（　　）

氏　　名（　　）

# 国語

設問一　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

私は常にストップウォッチを携帯している。大学の授業でも社会人向けセミナーでも、これを押さなければ始まらない。（ⅰ）、「一分」の重さを痛感しているからだ。

一分とは、一般的には短い時間として捉えられることが多い。だが私にいわせれば、きわめて長い時間だ。これだけの器があれば、さまざまな話を盛り込むことができる。多くの人は、せっかくの[1]その器をスカスカの状態にしているのではないだろうか。[A]

たとえば三分という時間を与えられると、一分で話せる中身に三分をかけてしまうことになる。つまり時間を三倍に薄めているわけだ。本来、三分の時間があれば、一分で話し切る内容の三倍のネタを用意しなければならないはずである。

しかし、ふだん大学生やビジネスパーソンに接していると、[2]「密度感覚」の乏しい人が①あっとう的多数である。やはり一分というと、単純に「短い」という感覚を持っている人がほとんどだ。

そのため、たとえば前置きが異常に長かったりする。「うまく話せないかもしれませんが・・・」とか、「一分という短い時間の中で、何をどう話していいか迷いまして・・・」など、あらかじめ言い訳めいた発言をするパターンが多い。あるいはなかなか本題に入らず、落語のように〝枕〟を置こうとする人も少なくない。気持ちはわからないでもないが、これは物理的に無理である。〝枕〟に三十秒ほどもかけてしまうと、本題は②じっしつ三十秒で終わってしまうからだ。[B]

そこで重要なのが、一分の密度を徹底的に上げていくトレーニングだ。それによって、まず[3]「高密度」という感覚を身体で覚えていく。その上で、[4]それを二分ないし三分に伸ばしていけば、その間の情報量は膨大になるだろう。

（ⅱ）、人の話で重要なのは情報だけではない。③ふんいきを整えたり、膨らみを持たせて興味を促したりといった工夫も必要だ。単純に密度さえ濃ければいいというわけではない。しかし、コミュニケーションのツールとして、少なくとも密度感覚は現代人に必要④ふかけつなはずである。

私が「一分」にこだわるのには、理由がある。感覚的に、はじめと終わりが比較的見えやすい長さであるということだ。

たとえば私が学生に対して「一分でやれ」と何らかのミッションを出して、三十秒後に「はい終わり」と告げたとしたら、「まだ一分経っていないでしょ」という反応が返ってくる。四十五秒でも「今のはちょっと短かすぎないか」と気づく。あるいは一分二十秒後なら、「二分にしては長いな」と言い出す。つまり、「一分」という長さを、すでに時間感覚として持っているということだ。

（ⅲ）これが三分になると、二分ほど経過した時点で残り時間がわからなくなってくる。話をしていればなおさらだ。誰かに「三分経ちました」と告げられて、初めて気づくことが多いだろう。[C]

学生に三分スピーチをやらせてみても、きっちり三分で終わる者はいない。たいてい最初の一～二分はずるずると⑤よけいな話を繰り返し、そろそろ三分が経過しようかというころになって本題に入ったりする。だから五～六分になる者もザラだ。[D]

学生のスピーチ程度なら、多少時間が押してもさして問題はない。しかし、それでは済ませられない場合もある。シンポジウムやパネルディスカッションなどで、一人当たりの発言時間がⅰ限られているケースだ。

（ⅳ）壇上にパネリストが四人いたとして、一人五分ずつ話をすれば、二十分で終わる計算になる。司会者も最初にそうⅠクギを刺したとする。ところがこういう場合、私が四番目の発言者だとすると、私に順番が回るころにはほとんど時間がなくなっていることが多い。前の三人がⅡ軒並み五分以上で話してしまうためだ。私の経験でいえば、特に⑥ねんれいが上の人ほど話が長い。Ｅ

これが学会なら、発言時間が過ぎるとチリンとベルが鳴る。しかしシンポジウムの場合、出席者の先生を⑦そんちょうする必要があるため、なかなか切れない。私の場合は［　５　］ので、五分と言われればきっちり五分を守る。しかし順番が後になると、もはや守るべき時間すらなくなるのである。

そもそも時間というものは、誰にとっても取り返しのつかない資源である。数人で場を共有するということは、貴重な資源である時間を互いに供出し、プールし合うということでもある。だとすれば、6時間を守らないのは、その共有資源を一人で持ち逃げする行為に等しい。これがお金であれば、誰もが文句を言うことだろう。

（ⅴ）、そういう行為が許される場合もないわけではない。その人の話の密度が異常に濃い場合だ。これなら、⑧しゅういの誰もが「あの人が多く話すのは仕方ない」となる。むしろ「もっと聞きたい」と思う人もいるかもしれない。話術を持っている人、ⅱ情報量の多い人、あるいは知識・経験の豊富な人がこれに⑨がいとうする。

もっとも私は、これすらもいささか⑩きけんだと思っている。それがテレビなら、ポイントだけ切り貼りして放送することもできるが、リアルタイムの話は編集作業ができない。結局、多くの人にとっておもしろい人ではなく、本人だけがおもしろいと思っている立場の強い人が、より多く話してしまうという状態になりやすいのである。

（斎藤孝著『1分で大切なことを伝える技術』より）

問一　傍線部①～⑩のひらがなを漢字に直しなさい。

問二　（ｉ）～（ｖ）に入る語はどれか。その語として最も適当なものを、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選びなさい。

ア　ただし
イ　もちろん
ウ　なぜなら
エ　たとえば
オ　ところが

問三　次の文は、もともと本文中にあったものを抜き出したものである。本文中に戻した場合、その場所として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

それだけ時間感覚を失っているわけである。

ア　（　Ａ　）の場所
イ　（　Ｂ　）の場所
ウ　（　Ｃ　）の場所
エ　（　Ｄ　）の場所
オ　（　Ｅ　）の場所

問四　傍線部Ⅰクギを刺した、Ⅱ軒並みについて、後の問（1～2）に答えなさい。

1　Ⅰクギを刺したとはどういう意味か。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　依頼をした
イ　約束をした
ウ　強く迫った
エ　念を押した
オ　教え諭した

2　Ⅱ軒並みとはどういう意味か。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　人並みに
イ　おおらかに
ウ　われ先にと
エ　どれもこれも
オ　競うように

問五　傍線部ⅰ限られ、ⅱ情報量の多い人について、後の問（1～2）に答えなさい。

1　傍線部ⅰ限られの「れる」「られる」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　去年の夏休みが思い出される。
イ　皆が読めるよう丁寧に書く。
ウ　壁に掛けられた絵画を見る。
エ　先生が避難経路を指示された。
オ　予約のお客さまが来られた。

2　傍線部ⅱ情報量の多い人の「の」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　ずっとそうなることを願っていたの。
イ　彼の本棚には文学全集があります。
ウ　彼女が新しい担当の鈴木です。
エ　弟の欲しがっていたおもちゃです。
オ　体力の限界まで挑戦してみたい。

問六　傍線部1その器、4それについて、それぞれ何をさしているか、文中から抜き出して書きなさい。

問七　傍線部[2]「密度感覚」の乏しい人とはどのような人であるか。**あてはまらないもの**を次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　本題に入る前に何かと言い訳をする人。
イ　話を聞く人に興味を持たせられない人。
ウ　一分を単純に短い時間と考えている人。
エ　一分で話す情報は少ないと考えている人。
オ　落語のように話の最初に「枕」を置く人。

問八　傍線部[3]「高密度」という感覚を身体で覚えていく。ためにどうするべきと筆者は考えているか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　情報だけでなく話に膨らみをもたせる工夫をする。
イ　一分だけでなく、二分、三分の話の構成を考える。
ウ　一分での話の情報量を徹底的に増やしていく。
エ　三分で話す情報量を一分で話すよう工夫する。
オ　情報をコミュニケーションのツールと考える。

問九　空欄[5]に入れる適当な言葉を、文章中から二十字以内で抜き出しなさい。

問十　傍線部6「時間を守らないのは、その共有資源を一人で持ち逃げする行為に等しい。」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　場を共有する人にとって、時間という資源はその場にいる全員のものだから。
イ　時間は誰にとっても取り返しのつかない資源であり、自分だけのものだから。
ウ　話術を持っている人や知識・経験の豊富な人の時間は、特に守られるべきだから。
エ　本人だけがおもしろいと思っている立場の強い人によって話の順番が決まるから。
オ　時間を守らないことは、話の密度が異常に濃い人にだけしか許されないから。

問十一　次のア～オの文で述べられていることが本文の内容と合致しているものには○を、合致していないものには×を、それぞれア～オの［　］内に書きなさい。

ア　一分は短い時間という感覚を持っている人が多いが、一分を侮ってはいけない。
イ　一分で大切なことを伝える技術は、時間感覚のトレーニングによって身につく。
ウ　スピーチは密度が濃ければよいのではなく、いかに関心を促すかが大事である。
エ　学生のスピーチよりも、シンポジウム等の方が時間が厳密に守られている。
オ　時間とはそこに居るすべての人にとって共通する大切な価値あるものである。

設問二　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「普通においしい」や「普通におもしろい」などの言い回しをよく耳にする。ここに言う「普通に」とは「当然に」「当たり前に」という意味なのだろう。

ところで、この「普通に」という言葉を聞いて筆者がいつも想起するのが、南勝久原作のコミック『ザ・ファブル』である。伝説の殺し屋である主人公ファブルが、1年間誰も殺さずⅠ普通に暮らすようボスから命じられるというストーリーであり、最近では映画やアニメにもなっている。

だが、「普通に暮らす」ということをいざ考えてみると、これは意外に難しい。なぜなら、多様化を認めた社会において「当たり前の暮らし」のようなものが存在しないように思われるからである。

ただ、これを考える上で1つのヒントになるのではないかと思うのが「良き人生モデル」と言われるポジティブ心理学のアプローチである。このモデルでは、〈基本財〉（普遍的に良いもの）を主体的に獲得することを通じて、生活の充足と精神的な福利を獲得することができるのだと考える。

〈基本財〉に挙げられているのは、①生命（健康的な生活や機能）②知識（生活していく上で必要な知識）③仕事や遊びでの卓越（達成経験など）④行動の主体性（自律性、自己決定）⑤精神の平穏さ（ストレスに振り回されないことなど）⑥友情や関係性（親密な関係、家族関係など）⑦コミュニティー（親密な者以外との関係性）⑧精神性（人生に意義や目的を見出すこと）⑨幸福（人生において自分の欲求が満たされている状態）⑩創造性（目新しさや革新を求めること）である。

良き人生モデルでは、人々は共通して〈基本財〉を追い求めて生きているということを前提としているのだが、それを達成するために採った手段や方法が合法的か非合法的であるかによって、人々に違いが生じてしまうのだと考える。そして、非合法的な方向に逸脱した人々に対しては、〈基本財〉を合法的な手段や方法で獲得できる能力を高めるような指導や支援を行うことが必要だと考えるのである。

これは、２０１０年代に提唱された比較的新しい犯罪者処遇の理論なのだが、短所や欠点の改善ばかりに目を向けるのではなく、Ⅱそれぞれが持つ長所や強みも活かして〈基本財〉の獲得という本来あるべき正しい方向に向かうことを重視するのは、私たちの人生や身近な社会のあり方を見直す際にもかなり有用ではないだろうか。ウェルビーイング（健康で幸福な状態）をさらに推進していくことが期待される。

（長崎新聞２０２４年９月１６日　「ながさき時評　柴田　守「良き人生モデル　〝普通〟を形づくるもの」より）

問一　傍線部Ⅰ「普通」とはどのようなことか考えて【ノート】の文章を書いた。本文の内容を踏まえて、空欄（ア）（イ）に入る語句をそれぞれ十字以内で本文中から抜き出して書きなさい。

【ノート】　ポジティブ心理学のアプローチに「良き人生モデル」があり、このモデルでは、「基本財」を主体的に獲得することを通じて、生活の充足と（ア）を獲得することができると考える。「基本財」を獲得するための手段や方法によって人々に違いが生じてしまうが、「基本財」を（イ）で追い求め達成していくことが、「普通」を形づくるのではないだろうか。

問二　傍線部Ⅱそれぞれが持つ長所や強みも活かして〈基本財〉の獲得という本来あるべき正しい方向に向かうことを重視するとあるが、筆者の主張を踏まえ、ウェルビーイングをさらに推進するために、あなたがどのように取り組んでいこうと考えるか、具体的にわかりやすく三〇〇字以上三五〇字以内で述べなさい。
（文は例のように第一マス目から書き始め、改行したい場合は句点直後のマスにマークとして△を入れること。）

【例】

あいうえおかきくけこ。△さしすせそたちつ
てと、なにぬねの。はひふへほ。△まみ

令和七年度　一般選抜1期・一般選抜特待生選考1期　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

**設問一**

問一

| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|---|---|---|---|---|
| 的 | | | | |

| ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

問二

| i | ii | iii | iv | v |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

問三

| 1 | 2 |
|---|---|
| | |

問四

| 1 | 2 |
|---|---|
| | |

問五

| 1 | 2 |
|---|---|
| | |

問六

| ① | ④ |
|---|---|
| | |

問七

問八

問九

問十

問十一

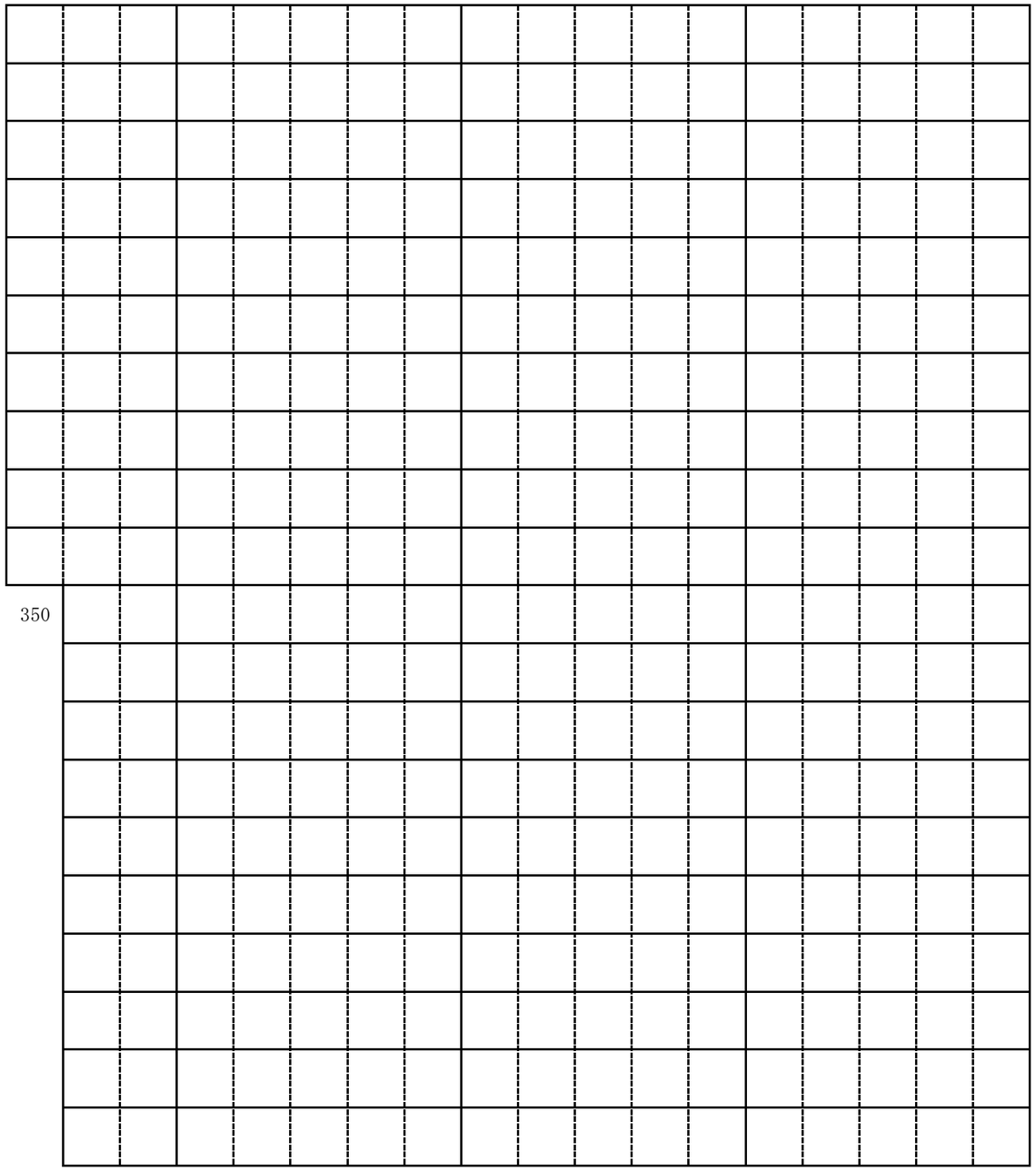
| ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

**設問二**

問一

| ア | イ |
|---|---|
| | |

問二



令和七年度　一般選抜1期・一般選抜特待生選考1期　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

**設問一**

問一

| ① | ⑥ |
|---|---|
| 圧倒的 | 年齢 |
| ② | ⑦ |
| 実質 | 尊重 |
| ③ | ⑧ |
| 雰囲気 | 周囲 |
| ④ | ⑨ |
| 不可欠 | 該当 |
| ⑤ | ⑩ |
| 余計 | 危険 |

問二

| i | ii | iii | iv | v |
|---|---|---|---|---|
| ウ | イ | オ | エ | ア |

問三　エ

問四　1　エ　　2　エ

問五　1　ウ　　2　エ

問六　①　一分　　④　一分の密度

問七　イ

問八　ウ

問九　常にストップウオッチを携帯している

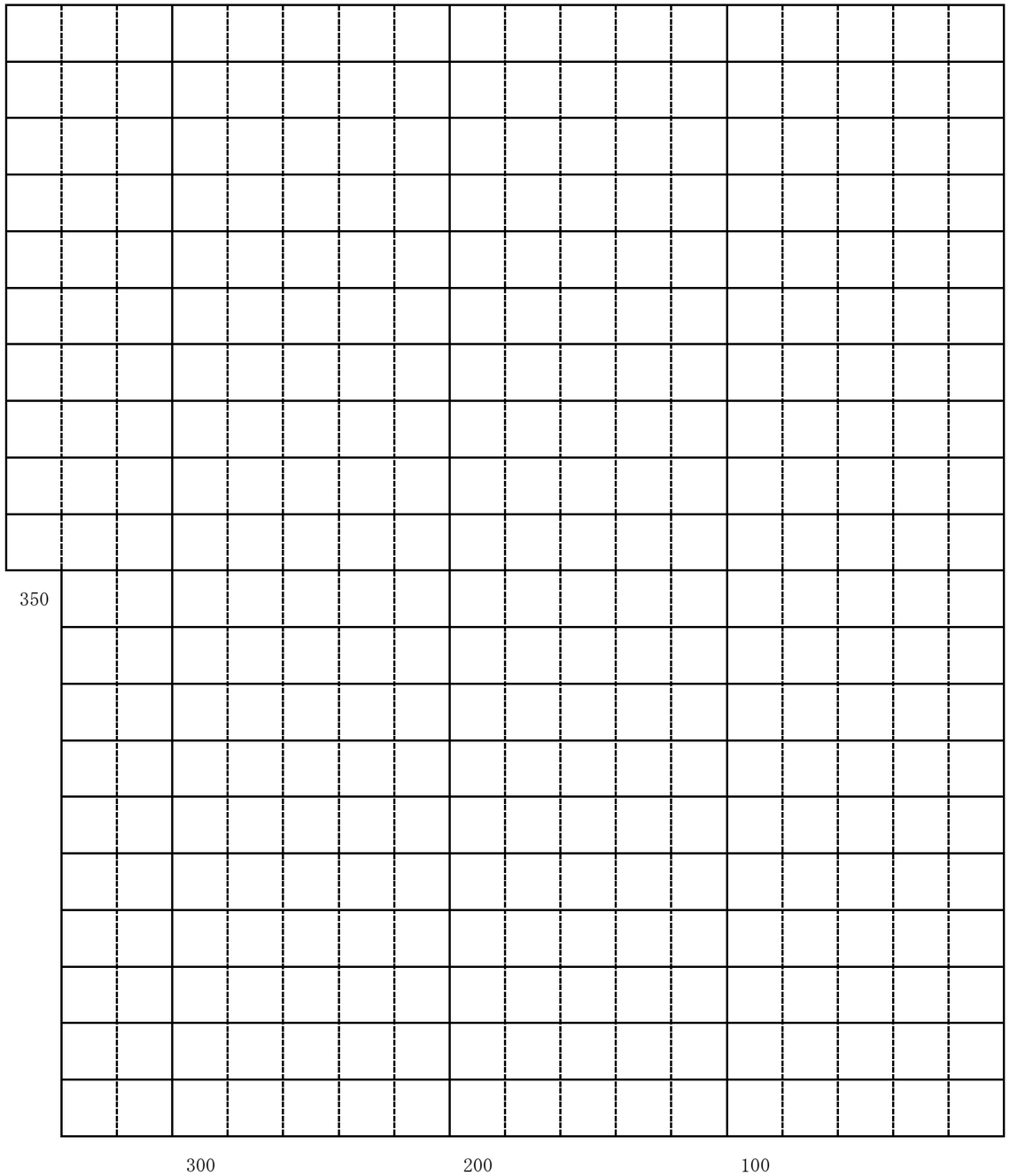
問十　ア

問十一　ア　○　　イ　×　　ウ　×　　エ　×　　オ　○

**設問二**

問一　ア　精神的な福利　　イ　合法的な手段や方法

問二



# 令和７年度 国語 【一般選抜１期・一般選抜特待生選考１期】 出題意図

## 【設問一】 評論文：語彙力・文章構成理解・論理的思考力の確認

・漢字の書き取り、文脈に応じた接続詞の適切な選択、慣用句の意味の理解など、基礎的な国語能力を評価する。

・助詞・助動詞の語学的識別（受身・可能等）や、指示語が指し示す対象を正確に読み取る力を測定する。

・筆者の主張を的確に把握する読解力を確認する。

## 【設問二】 評論文および小論文：要約力・思考力・具体的問題解決力の確認

・筆者の主張や重要なテーマを正確に読み取り、指定条件に合わせた要約力・精読力を評価する。

・ウェルビーイング（健康で幸福な状態）の推進に向け、自身の長所や強みを活かしてどのように行動していくかについて、指示条件に従い論理的かつ具体的に論述する文章表現力を測定する。

# 令和７年度

# 国語

## 一般選抜２期

## 一般選抜特待生選考２期

## 入学試験問題

**注意事項**

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は、9 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気づいた場合は、
手を挙げて監督者に知らせなさい。

３．解答は、解答用紙に記入しなさい。

４．解答用紙には解答欄以外に受験番号、氏名の記入欄があるので、監督者の指示に従って
記入しなさい。

５．問題冊子の余白等は適宜利用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。

６．試験終了後、問題冊子は回収します。

受験番号（　　）

氏　　名（　　）

# 国語

設問一　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

日本人の身体のなかには虫が棲んでいるらしい。しかし、どんな虫なのか、だれも見た者はいない。①しょうたい不明なのだが、とにかく、身体の一定の場所にじっとひそんでいて、何かの折りに不意に動きだす。

体内の一定の場所といったが、そこがどこなのかもはっきりしていない。たぶん、お腹のあたりなのであろう。ふだんはそこにおとなしくしているのだが、いったん暴れだすと、もうⅠ手がつけられなくなる。そうなるとあらゆる②さくを使って封じこめるか、思いきって「虫を殺す」以外にない。だが、殺してもすぐに生きかえるのか、それとも、べつの虫がとって代わるのか、虫はいつの間にか、ちゃんともとのところに納まっている。

日本人の体内にいるそのような虫は一匹だけなのだろうか。それとも二匹、あるいは何匹もいるのだろうか。これも不明である。おそらく二、三匹はいるのだろう。そして、この虫が人間のひとりひとりを動かしているのである。【ⅰ】、日本人の体内に巣くう虫を解剖せずには日本人のしょうたいをつかむことはできない。

精神分析学の③そうし者1フロイトは、人間を無意識のうちに動かしている衝動をリビドーと名づけた。人間の魂の底には広大な無意識の④りょういきがひろがっていて、その無意識の層にひそむ盲目のエネルギーが人間の行動を支配しているというのだ。そのリビドーをフロイトは性のエネルギーと考え、やがて、生への欲求と見なすようになった。A

そのような無意識の発見、リビドーの心理学は二十世紀の最大の⑤ぎょうせきのひとつにⅰ数えられているが、日本人は早くからそれに気づいていた。といっても、フロイトのように、実験的、臨床的につきつめたわけではなく、科学的に分析したわけでもない。【ⅱ】、人間が得体の知れぬ何ものかに左右されるものであることを日本人は⑥ばくぜんと感じとって、2それを「虫」のように表象したのである。その「虫」はフロイトのリビドーのように無意識の層に沈澱しており、何かのきっかけで意識のりょういきに浮かびあがってくる。リビドーとおなじように、それは盲目的な衝動であるから、分別によって制御できない。したがって、3「虫」に対しては不断の注意が必要である。絶えず気をつけて、いつも「虫」をいるべき場所に納めておかねばならない。そうしないと、「虫のいどころが悪い」ということになる。「虫のいどころが悪い」と怒りがこみあげてくる。そして、「虫」がもとの場所にもどらないかぎり怒りは鎮まらない。「腹の虫が納まらない」のである。B

日本人の体内に棲む「虫」が、［　4　］とちがうところは、その虫が鋭い直観力、本能的な勘を持っているという点である。それはまさに昆虫のごとき感覚で、その感覚により日本人はⅡたちどころに相手の人物を見分ける。相手をチラと見ただけで、【ⅲ】、ひと言ふた言かわしただけで、体内の虫が⑦きょひ反応を示すと、その人間は「虫が好かない」ということになる。べつにはっきりとした理由があるわけではないのだが、何となく⑧ふゆかいになるのだ。C

虫の鋭い直観力というなら「虫の知らせ」という言葉が何より5それをよく語っていよう。人間の意識には限界があり、人間の認

識能力は限られている。けれども、時として、自分にもわからぬ不思議な直観力が働く場合がある。D

日本人の身体のどこかに虫が棲んでいて、さまざまな働きをしているのであるが、その虫は人間の力ではどうにも統御できないので、できればそっとしておきたいと人びとは思っている。「虫が起きる」とたいへんなことになるからである。ある場合には精神に変調をきたし、⑨じょうちょが不安定になる。泣きだしたり、自信をなくしてしまったりする。だから、そういう人間を日本人は「泣き虫」といい、「弱虫」と呼ぶ。また、ひとつのことにとりつかれ、一途になり、パラノイアのような徴候を見せる。そこで日本人は、書物にばかり夢中になる人間を「本の虫」、ひたすら芸に打ちこむ人間を「芸の虫」などと呼ぶ。【 iv 】、それはいずれも虫がそうさせていると考えるのである。E

では、「虫がいい」というのはどういうことなのだろうか。体内の虫がいい気になっているというわけであろう。その虫のいいなりになって身勝手に振る舞うのを「虫がいい」というのである。

人間にとって、心は見えない。そこで人びとは心というものをいろいろに表象した。中国人は人間の中に「魂」と「魄」とがあると考えた。人間の心は魂魄から成るのである。魂とは天から享けた神気であり、魄とは地から受けた霊気である。したがって人間は死ぬと魂は天にのぼり、魄は地にとどまるとされた。このふたつが人間の心をどのように分け合っているのかは、いまひとつ明らかではないが、6心というものは自分の心でありながら、しかも自分の意のままにならないものだ。だからインド人もこう考えるのである。『バガヴァッド・ギーター』にいう。

心こそ自分の友であり、
心こそ自分の敵である。

そうした心の不思議を日本人は「虫」として思い描いた。心というものは、自分が欲し、自分が考え、自分が感じる、そういうものである。にもかかわらず、心が自分の思いどおりにならない場合がしばしばある。ということは、心のなかに、もうひとつのべつの心があるにちがいない。日本人はその「ふたつの魂」のひとつを「虫」と呼んだのである。そして、人間にとって、より⑩こんげん的なのはこの虫のほうだと考えた。【 v 】、人間が意識を失って、息も絶え絶えになったとき、日本人はその状態を「虫の息」というではないか。「虫の息」とは体内の虫だけがかろうじて息をしているさまである。つまり、最後まで人間の生をささえているのは「虫」なのだ。この意味でii日本人の考える「虫」とは、フロイトのリビドーに近い。

（森本哲郎著『日本語　表と裏』より　設問の都合上、一部省略）

問一　傍線部①～⑩のひらがなを漢字に直しなさい。

問二　【ⅰ】～【ⅴ】に入る語はどれか。その語として最も適当なものを、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選びなさい。

ア　なぜなら
イ　つまり
ウ　したがって
エ　しかし
オ　あるいは

問三　次の文は、もともと本文中にあったものを抜き出したものである。本文中に戻した場合、その場所として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

が、いずれにしても、人間は意識されない何ものかによってつき動かされているのである。

ア　A の場所
イ　B の場所
ウ　C の場所
エ　D の場所
オ　E の場所

問四　傍線部Ⅰ手がつけられなくなるⅡたちどころにについて、後の問（1～2）に答えなさい。

1　Ⅰ手がつけられなくなるとはどういう意味か。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　何もわからなくなる。
イ　まったく際限がなくなる。
ウ　判断する力がなくなる。
エ　解決する手段がなくなる。
オ　様子が大きく変わる。

2　Ⅱたちどころにとはどういう意味か。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　とっさに
イ　まよわず
ウ　すぐさま
エ　まちがいなく
オ　そのままで

問五　傍線部ⅰ数えられ、ⅱ日本人の考えるについて、後の問（1～2）に答えなさい。

1　傍線部ⅰ数えられの「れる」「られる」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　先生がやっと教室に来られる。
イ　その要求は決して受けられない。
ウ　その本は多くの人に読まれた。
エ　あの景色がなぜか思い出される。
オ　早く来られた方から案内する。

2　傍線部ⅱ日本人の考える　の「の」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　クラス委員の田中です。
イ　彼女の言うことは正論だ。
ウ　とても頂上までは行けないの。
エ　旅行のために貯金する。
オ　私の本棚には小説がある。

問六　傍線部2それ、5それについて、それぞれ何をさしているか、文中からそれぞれ十字以内で抜き出して書きなさい。

問七　傍線部1フロイトの精神分析学では、無意識をどのように研究したと筆者は述べているか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　人間を支配し苦しめるのは人間を無意識のうちに動かす何かであると分析した。
イ　実験的、臨床的方法で無意識について研究し人間の行動についてすべて分析した。
ウ　無意識の層にひそむ盲目のエネルギーが人間の生きていく源であると分析した。
エ　科学的な方法を用いて無意識とそれに支配される人間の愚かさについて分析した。
オ　人間の魂の底に広がる無意識のエネルギーだけが心を支配していると分析した。

問八　傍線部3「虫」に対しては不断の注意が必要である。とあるが、それはなぜか。**あてはまらないもの**を次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　体内の虫は一定の場所にひそみ何かの折りに動き出すから。
イ　体内の虫は数えることができず何匹いるのかわからないから。
ウ　体内の虫は無意識の層から何かのきっかけで出てくるから。
エ　体内の虫は一定の場所に納めないと怒りがおさまらないから。
オ　体内の虫は人間のひとりひとりをつき動かしているから。

問九　空欄4に入れる適当な言葉を、文章中から六字以内で抜き出しなさい。

問十　傍線部6「心というものは自分の心でありながら、しかも自分の意のままにならないものだ。」と人間の心について述べているが、筆者の意見として正しいものはどれか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　人間にとって心は見えないから、自分の力ではどうにも統御できないのである。
イ　人間の心は魂魄から成るが、「魂」と「魄」のふたつがうまく分け合っていない。
ウ　自分が欲し、考え、感じても、自分の心にはもうひとつのべつの心がある。
エ　心は自分の友であり自分の敵であるように、まったく逆の心が存在している。
オ　心とは不思議なものであり解明されないことが多く今後の分析を待つしかない。

問十一　次のア～オの文で述べられていることが本文の内容と合致しているものには○を、合致していないものには×を、それぞれア～オの［　］内に書きなさい。

ア　日本人の身体の中に棲んでいる虫は人間の心を惑わせる無用で迷惑なものである。
イ　フロイトの精神分析は、日本人の心の分析にはまったくあてはまらない内容である。
ウ　日本人の体内に棲む虫は直観力や勘を持っているので人間の認知能力を超える。
エ　日本人は自分にもわからない昆虫のような感覚、不思議な直観力を持っている。
オ　日本人が最後まで人間の生をささえているのは虫だと言う根拠は認められない。

設問二　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私たちは自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意を誓い合ったのであります。―１９５６年８月10日、ここ長崎の地で発足した日本原水爆被害者団体協議会（被団協）は、「世界への挨拶」で高らかに宣言した。それから68年。Ⅰ核兵器廃絶へのたゆまぬ努力が人類への大きな功績として認められ、今夜ノルウェー・オスロでノーベル平和賞が授与される。

ロシアによるウクライナ侵攻や混沌とする中東情勢などかつてないほど核使用リスクが高まる中、授賞を契機に改めて核廃絶への機運を高めていきたい。

ノーベル賞委員会は先の授賞理由で、核の使用は道徳的に許されないと烙印を押す国際的な規範「核のタブー」が醸成された文脈において、「被爆者の証言は唯一無二のものである」と断言した。

被爆者は、米国が投下した原爆によって長崎、広島が死の街と化し、生き残った人々も後遺症に苦しみ続ける被害の実相について、国内外で地道に証言を続けてきた。その根底には「ふたたび被爆者をつくらない」という強い思いがある。核を「絶対悪の兵器」と断罪し、次世代のために行動してきたことに大きな価値がある。

被爆者は核廃絶はもとより「国家補償」も求めてきた。日本政府などに対する被団協の「基本要求」によると、原爆被害への国家補償を行うことは、核戦争被害を国民に受忍させないと国が誓うこと。それが「ふたたび被爆者をつくらない」大前提になるとー。だが旧軍人・軍属とその遺族には国家補償に基づき恩給や年金が給付されてきたのに対し、被爆者らへの補償はいまだ実現していない。

ただ、そこに迫った司法判断がある。78年、韓国人被爆者の孫振斗さん（２０１４年死去）が被爆者健康手帳を求めた訴訟で、最高裁は被爆者援護の理念に初めて「国家補償的配慮」を認めた。この判断はのちの数々の被爆者訴訟の判決で引用され、援護拡大に大きく寄与したことは広く知られている。

このように国内のみならず韓国など在外被爆者の尽力も忘れてはならない。また多くの市民が被爆者運動を支えてきたことも心にとどめておきたい。平和賞はそうしたすべての人に贈られると言ってもいい。

授賞式では、被団協代表委員の田中熙巳氏が講演する。２日の記者会見では核兵器の非人道性などを訴えたいとして「（核廃絶へ向け）大きな運動が起きるきっかけになってほしい」と語った。Ⅱ長年、被爆者が命懸けで求めてきた「核なき世界」に一歩でも近づけるかどうかは、私たち自身にもかかっている。しっかりと耳を傾けたい。

（長崎新聞２０２４年12月10日　論説　「すべての人に贈られる　被団協に平和賞授与」より　）

問一　傍線部Ⅰ核兵器廃絶へのたゆまぬ努力が認められたとあるが、それはどのようなことか考えて【ノート】の文章を書いた。本文の内容を踏まえて、空欄（ア）（イ）に入る語句をそれぞれ十五字以内で本文中から抜き出して書きなさい。

【ノート】　被爆者は、原爆による惨状や後遺症に苦しむ被害の実相について証言を続けてきた。被爆者の証言は唯一無二のものとしてノーベル賞委員会でも認められた。多くの苦しみや悲しみの中で、核兵器廃絶に向けて、（　ア　）という強い思いをもって行動してきた。また、「国家補償」すなわち、核戦争被害を国民に受忍させないと国が誓うことも求めてきた。核兵器廃絶を目指す被爆者は、現在のみならず、（　イ　）ことも忘れてはならない。

問二　傍線部Ⅱ長年、被爆者が命懸けで求めてきた「核なき世界」に一歩でも近づけるかどうかは、私たち自身にもかかっている。とあるが、筆者の主張を踏まえ、「核なき世界」に近づくために、あなたがどのように考え、行動していこうと思うか、具体的にわかりやすく三〇〇字以上三五〇字以内で述べなさい。
（文は例のように第一マス目から書き始め、改行したい場合は句点直後のマスにマークとして△を入れること。）

【例】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あ | い | う | え | お | か | き | く | け | こ | 。 | △ | さ | し | す | せ | そ | た | ち | つ | | |
| て | と | 、 | な | に | ぬ | ね | の | 。 | は | ひ | ふ | へ | ほ | 。 | △ | ま | み | | | | |

令和七年度　一般選抜２期・一般選抜特待生選考２期　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

**設問一**

問一

| ① | ⑥ |
|---|---|
| ② | ⑦ |
| ③ | ⑧ |
| ④ | ⑨ |
| ⑤ | ⑩ |

問二

i

ii

iii

iv

v

問三

問四

Ⅰ

Ⅱ

問五

1

2

問六

1

2

問七

問八

問九

問十

問十一

ア

イ

ウ

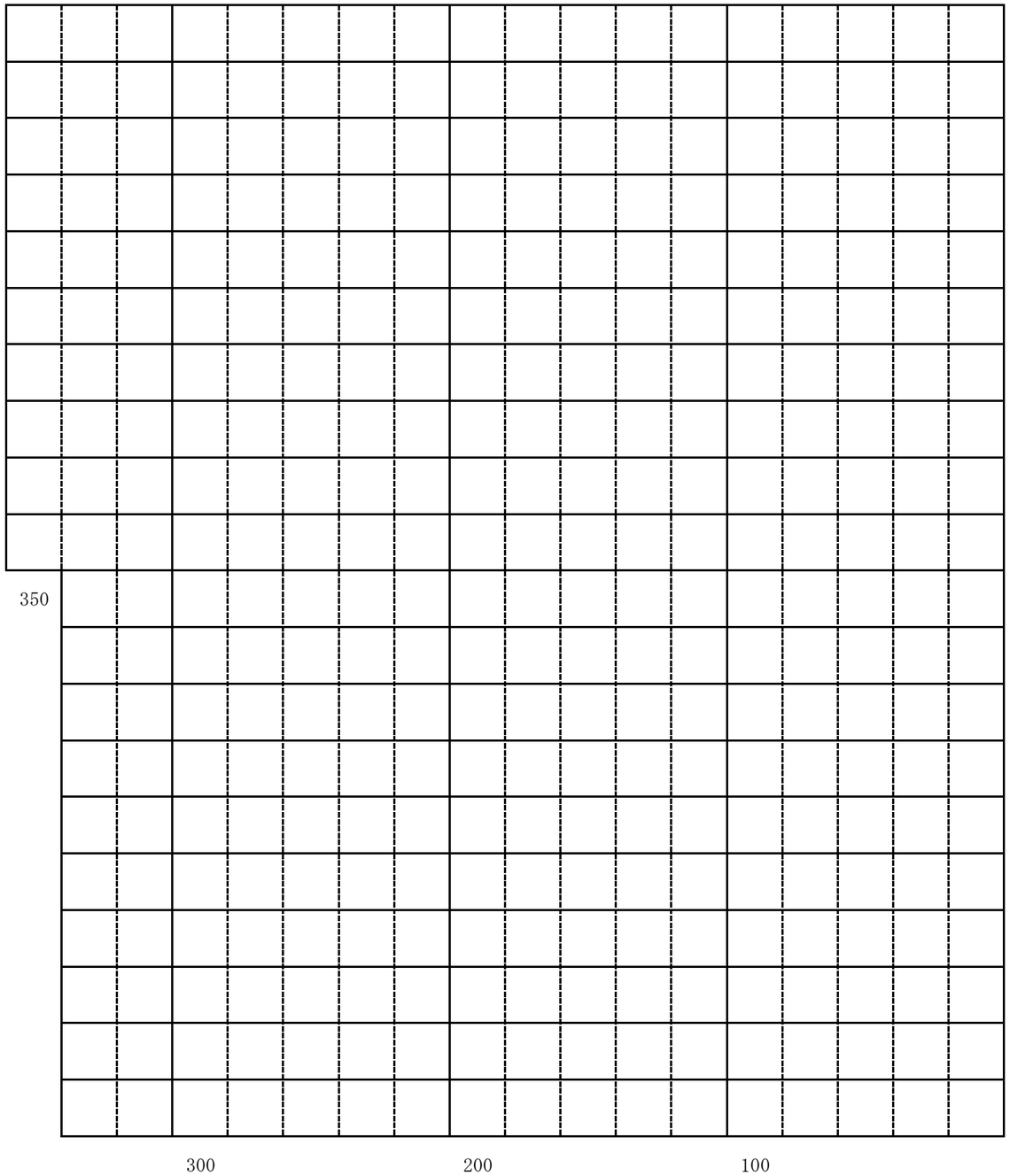
エ

オ

**設問二**

ア

イ



令和七年度　一般選抜２期・一般選抜特待生選考２期　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

**設問一**

問一

| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|---|---|---|---|---|
| 正体 | 策 | 創始 | 領域 | 業績 |

| ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|
| 漠然 | 拒否 | 不愉快 | 情緒 | 根源 |

問二

| i | ii | iii | iv | v |
|---|---|---|---|---|
| ウ | エ | オ | イ | ア |

問三　ア

問四

| I | II |
|---|---|
| エ | ウ |

問五

1　ウ

2　イ

問六

1

| 得 | 体 | の | 知 | れ | ぬ | 何 | も | の | か |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

2

| 虫 | の | 鋭 | い | 直 | 観 | 力 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

問七　ウ

問八　イ

問九

| リ | ビ | ド | ー | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

問十　ウ

問十一

ア　×

イ　×

ウ　○

エ　○

オ　×

**設問二**

問一

ア

| ふ | た | た | び | 被 | 爆 | 者 | を | つ | く | ら | な | い | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | |

イ

| 次 | 世 | 代 | の | た | め | に | 行 | 動 | し | て | き | た | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | |

問二

350

300　200　100

# 令和 7 年度 国語 【一般選抜 2 期・一般選抜特待生選考 2 期】 出題意図

**【設問一】 評論文：基礎語彙力・抽象的概念の読解力・文法知識の確認**

・漢字の書き取り、文脈に応じた接続語の選択、慣用表現の正確な意味の理解など、基礎的な語彙能力を評価する。

・助詞「の」や助動詞「れる・られる」の意味用法の識別、指示語の指示対象の抽出、筆者の主張を正確に分析する論理的読解力を判定する。

**【設問二】 新聞論説および小論文：情報抽出力・社会課題に対する主体的な思考力・記述力の確認**

・筆者の主張を的確に理解する精読力・要約力を判定する。

・「核なき世界」の実現に向け、指定された条件を踏まえながら、自らの考えを論理的かつ説得力をもって記述する表現力を評価する。